

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅲ(消化器)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学期	第1学期
担当講師	看護師 横山 里佳子(臨床経験13年、教育経験11年)				
科目目標	1. 生命の危機的状況を脱し、回復に向かうプロセスや社会復帰や自立に向けての看護を理解する。 2. 消化器疾患患者の看護を理解する。 3. 対象の看護に必要な技術を習得する。				
授業概要	消化・吸収機能障害のある患者への看護:23H 第1回 回復期にある対象の特徴と看護、原因と障害のアセスメントと看護 担当:看護師(2H) 1. 回復期にある対象の特徴と看護 生活の再調整の促進 (身体的な問題への援助(苦痛の緩和、日常生活の援助と環境の調整、食事の援助、早期回復に向けての援助、急性増悪の予防と早期発見、検査の介助)、心理・社会的な問題への援助(不安とストレス、食の制限への対応、自己管理に対する援助)、家族への援助(健康な食生活の指導、日常生活の調整、ソーシャルサポートの必要性)) 2. 原因と障害の程度のアセスメントと看護 咀嚼・嚥下障害、消化管機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害、生命・生活への影響 第2回 主な症状のある患者の看護 担当:看護師(2H) 消化器に関するフィジカルアセスメント、嚥下困難、おくび・胸やけ、吐き気・嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢、腹部膨満感、食欲不振と体重減少、黄疸、意識障害(肝性脳症) 第3・4回 検査を受ける患者の看護 担当:看護師(4H) 上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)、消化管造影、造影CT・MRI、直腸診、腹部超音波 第6・7回 主な治療・処置を受ける患者の看護 1、2、5 担当 : 看護師(2H) 3、4 担当 : 看護師(2H) 1. 栄養療法:経腸栄養法、静脈栄養法(中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法)の適応と管理 2. 食事療法 3. 手術療法:開腹手術(手術前、手術後)、腹腔鏡下手術(手術前、手術後)、人工肛門造設術胃瘻・空腸瘻造設、肝切除術 4. 肝生検、肝庇護療法、インターフェロン療法、食道静脈瘤内視鏡治療、肝動脈塞栓術 5. 心理的葛藤への援助、チームアプローチと社会資源の活用(多職種連携、身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用)患者の社会参加への支援(就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因) 第8回 主な治療・処置を受ける患者の看護 担当:看護師(2H) 6. 人工肛門造設術(ストーマ造設術)の管理と実際(スキンケアも含む)(演習) 第9回～第12回 病期や機能障害に応じた看護 1、4、5、6 担当 :看護師(6H) 2、3 担当 : 看護師(2H) 1. 食道がん、2. 胃十二指腸潰瘍、胃がん、3. イレウス、大腸がん、直腸がん 4. 肝炎、肝がん、胆石症、肝硬変、5. 膵炎、6. 口腔・咽頭腫瘍 第13回 終了試験:1H 急性期にある対象の特徴と看護 事例による看護過程の視点を学ぶ(胃癌で手術を受ける患者) 担当:横山 里佳子(7H) 第1回 急性期(周手術期)看護 1. 周手術期、胃がんとは 2. 全身麻酔・生体反応・開腹手術・胃切除によって起こる生体反応の機序 3. 危機的状況への患者・家族への精神的支援、治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援、代理意志決定				

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅲ(消化器)	対象学生	第2学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学期	第1学期
担当講師	看護師 横山 里佳子(臨床経験13年、教育経験11年)				
第2回	術前評価に必要なデータとアセスメント 呼吸器合併症、循環器合併症、イレウス、縫合不全・創傷治癒過程、せん妄、疼痛				
第3回	術前・術後のケア計画 1. 術後合併症の早期発見・予防のための看護計画 2. 幽門側胃切除による機能低下と術後問題の予測				
第4回	科目終了試験:1H				
看護師国家試験出題基準					
消化・吸収機能障害のある患者への看護 第1回:咀嚼・嚥下障害、消化機能障害、膵液分泌障害、胆汁分泌障害、肝機能障害、代謝機能障害、生命・生活への影響 第2回:消化器に関するフィジカルアセスメント、 第3・4回:上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)、消化管造影、造影CT・MRI、直腸診、腹部超音波 第5・6回:咽頭・喉頭摘出術、食道切除術、大腸切除術、膵切除術、腹腔鏡下手術、手術後ドレナージ、胆道・胆嚢ドレナージ、経腸栄養法、経静脈栄養法、肝庇護療法、インターフェロン療法、食道静脈瘤内視鏡治療、肝動脈塞栓術、肝切除術、肝生検 第7回:人工肛門造設術 第8回～第11回:口腔・咽頭腫瘍(舌癌、咽頭癌、喉頭癌)、上部消化管腫瘍(食道癌、胃癌)、下部消化管腫瘍(大腸癌、結腸癌)、人工肛門造設後、潰瘍性疾患(胃・十二指腸潰瘍)、胆石症、膵炎、肝炎、肝硬変、肝癌					
急性期にある対象の特徴と看護 青年期・壮年期・向老期の身体的特徴、青年期・壮年期・向老期の心理・社会的特徴、急性期にある患者の特徴(身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴)、開腹・鏡視(内視鏡)下手術方法による影響と援助、手術体位による影響と援助、麻酔による影響と援助、生体反応、急性期にある家族の特徴(心理的特徴、社会的特徴)、危機的状態への精神的支援、治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援、代理意志決定支援、術後合併症のリスクアセスメントと援助、術後出血、下肢静脈血栓症、肺塞栓症、呼吸器合併症、感染症、検体検査(血液)、生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)手術療法の理解を促す援助、手術の意思決定への支援、術後合併症の援助、術前オリエンテーション、不安のアセスメントと援助、術後の疼痛管理、創傷管理、ドレーン管理、廃用症候群、呼吸・循環・体温調整のアセスメント、創傷の治癒過程、創傷のアセスメント、生命の危機的状況のアセスメント					
授業の進め方					
臨床で遭遇する頻度が高く、基本的知識として必要な内容を選択して教授する。また、臨床で実施する機会の多い看護については、演習を行い技術の習得を図る。					
履修のポイント、留意事項					
形態と機能、疾病・治療論、薬理学、診療補助技術、基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ 成人看護学概論などの内容を想起する。					
テキスト					
系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 臨床外科看護各論 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院					
評価方法					
課題レポート、授業態度(演習参加度等)、科目終了試験を総合して行う。					